

2018年5月4日

BMW グループは 2018 年を好調にスタート

- EBT マージンは 2011 年以來の最高レベル
- 販売台数と純利益は共に過去最高を記録
- 自動車セグメントの EBIT マージンは前年を上回り、目標範囲の上限に届く勢い
- 将来のモビリティのための高額の先行支出を継続
- 電動化戦略が持続可能な影響を及ぼす
- BMW グループの 2018 年通期見通しを再確認
- BMW AG 取締役会会長ハラルド・クルーガー: 将来のモビリティと持続可能な収益性を結び付ける

ミュンヘン発:

BMW グループは、第 1 四半期を好調に終えて 2018 年の会計年度をスタートした。変動の激しい市場環境や為替の影響を受けるも、販売台数および純利益は過去最高値を記録した。また将来のモビリティのための高額な先行支出にもかかわらず、自動車セグメントは事業結果 (EBIT) で新記録を打ち立てた。

BMW AG 取締役会会長のハラルド・クルーガーは金曜日、ミュンヘンで次のように語った。「私たちの業界は、現在のところかつてない技術革新の段階にあり、非常に難しい状況を克服しなければなりません。そのためのいくつかの重要なポイントを、第 1 四半期に見ることができます。当社は『機会』が重要だと考えており、戦略を明確にして追求して行きます。当社は、将来のモビリティと持続可能な収益性を結び付けます。これは、不安定な時期であってもグループ・レベルで高い税引前利益を生み出すことができる、という事実によって裏打ちされます。BMW グループは 2017 年、世界で最も収益性の高い自動車会社となり、2018 年はさらにそのペースを加速します。今年の第 1 四半期には、販売台数および純利益において最高値を達成し、さらに重要な戦略的決定を実行に移しました。」BMW グループは、未来志向の **ACES** トピック (**A**utonomous: 自律的、**C**onected: 接続性、**E**lectrified: 電動化、**S**ervices: 奉仕 / **S**hared: 共有) に沿って、モビリティ分野の変革に積極的に取り組んでいる。

モビリティ分野での大きな変革があったにもかかわらず、BMW グループの戦略的決定を推進する最も安定した要因は**顧客**である。そのため BMW グループは、BMW i3 からロールス・ロイス ファントムに至るまで、またカスタマイズされた融資の提供からインテリジェントなモビリティ・サービスに至るまで、顧客の生活をより簡単で便利にするための独自の製品やサービスを提供している。こうしたユーザー志向の戦略により、BMW グループは顧客重視のモビリティ&テクノロジー企業へと成長を遂げ、2025 年までに既納客を 1 億人にするという目標を掲げている。

BMW グループは、企業戦略である **NUMBER ONE > NEXT** の重要な部分を実行するた

め、今年初めから大きく歩みを進めた。2月、BMWグループと中国の自動車メーカーである**Great Wall(長城汽車)**社は、電気のみで駆動する**ピュア EV MINI**を中国国内で現地生産する合併会社の設立趣意書に署名した。これはMINIブランドの電動化へ向けた未来へのさらに明確なコミットメントであり、BMWグループの中国市場の重要性を強調している。

その1か月後、BMWグループとダイムラーAGが**モビリティ・サービス**の事業単位の合併に関する契約を締結した。これは、カーシェアリング、ライド・ヘイリング、パーキング、チャージング、マルチモダリティの各分野で提供するオンデマンド・モビリティ・サービスを統合し、戦略的拡大を目指すことを目的としたものである。

BMWグループは4月11日、ミュンヘン郊外に**自律走行のためのキャンパス**を開設し、ここでパートナー企業と共に高度自動運転および完全自動運転に必要な技術を開発する。現在、ここでは1,800人の従業員のために、合計23,000平方メートルのオフィス・スペースを持つ最新かつ最先端の作業環境を提供している。このプロジェクトは多くの雇用を創出しており、2017年だけでもBMWグループは将来技術の開発のために約1,000人を雇用した。ここでは特に、人工知能(AI)、機械学習、データ分析といった分野のITスペシャリストやソフトウェア開発者が求められている。

先週、北京モーターショー2018でBMWグループは**BMW コンセプト iX3**を公開し、中国で製造される最初の**オール・エレクトリック BMW X3**のアイデアを披露した。2020年に生産開始予定のこのクルマは、改良型バッテリー技術を採用した第5世代のエレクトリック・ドライブトレインを搭載する最初のモデルとなる。搭載するバッテリーの正味容量は70 kWh以上で、WLTP サイクルで**400 km 以上**の航続距離を実現する。

3月初め、BMWグループは、BMW i Vision Dynamics をオール・エレクトリックの**BMW i4**として販売し、**ミュンヘン工場**で生産すると発表した。BMWグループは既に世界の10か所の工場で電気駆動モデルを生産している。またオックスフォード工場では、2019年からオール・エレクトリックMINIの生産を開始する予定である。BMW i4は、BMWグループが2025年までに市場に投入しようとしている**25種類**の電気駆動モデルの1台に過ぎない。これらのモデルの半分は完全に電動化される予定である。

BMWグループはまた、従来型エンジン搭載モデルのラインナップについても、そのペースを**さらに加速する**。2018年を通じてグループ史上最大の**製品攻勢**を継続し、さらに20種類のニュー・モデルおよびアップデート・モデルを投入する。BMW X2は3月、成功裏に市場導入され、新型BMW X3は第2四半期以降に3拠点で生産されるようになり、BMW X4の新世代モデルは導入準備段階にある。世界最大の高級車メーカーにとって、2018年は「**Xの年**」であることは明らかであり、特に下半期にはニュー・モデルの販売台数の増加が見込まれている。

販売台数および純利益では第 1 四半期の新記録を樹立

第 1 四半期の BMW、MINI、Rolls-Royce ブランドの**販売台数**は、前年同期比 3.0%増の 604,629 台(2017 年:587,237 台)となった。3 つの主要な販売地域すべてがこの販売増に貢献した。為替の影響により、この 3 か月間の**グループ収益**は前年同期比 5.1%減の 22,694 百万ユーロ(2017 年:23,926 百万ユーロ)となった。為替の影響を調整すると、収益は前年と同水準(0.7%減)である。**金利支払前税引前利益**(EBIT)も同じく為替要因の影響を受け、2,733 百万ユーロ(2017 年:2,821 百万ユーロ、3.1%減)となった。BMW グループのファイナンシャル・ガイダンスに関連する**税引前グループ収益**(EBT)は 3,165 百万ユーロ(2017 年:3,180 百万ユーロ、0.5%減)であり、研究・開発活動の費用や先行支出の増加にもかかわらず前年度並の高水準を維持した。この業績は財務成績の一部であり、これは反対方向に働いている科目の影響があるにもかかわらず改善した。昨年の第 1 四半期の財務成績は、HERE マッピング・サービスへの新規投資家の参加に伴い、183 百万ユーロのプラスの評価効果からの恩恵を受けていた。総額 122 百万ユーロに上るその他の財務成績の改善も、昨年の数値に影響を受けている。今年の 1 月から 3 月までの財務実績には、Sixt SE から合併会社 DriveNow の株式の 50%を 209 百万ユーロで取得したことによる評価効果が含まれている。

2018 年にもう一つ強力なフリー・キャッシュフローを予測

全体として、当グループの **EBT マージン**は 13.9%(2017 年:13.3%)となり、四半期としては 2011 年以来最高の純利益を計上した。今年の第 1 四半期**グループ純利益**は 2,301 百万ユーロ(2017 年:2,274 百万ユーロ)となり、昨年の記録的な数字をわずかに上回った(1.2%増)。

BMW AG の財務担当取締役**ニコラス・ペーター**は、次のようにコメントしている。「第 1 四半期を見ると、不安定な状況下でどのようにすれば業績が向上するかが示されています。したがって、現在は 2018 年の業績を確実にするために何をすべきかに焦点を当てています。私たちは、当社の持続可能な成功を確実にするための軌道に乗っています。将来の業績のための基盤は当社の財務体質であり、2018 年は 30 億ユーロ以上のさらなるフリー・キャッシュフローによって強化したいと考えています。

自動車部門:EBIT マージンは目標圏内

第 1 四半期の**自動車部門の収益**も為替の影響を受け、3 月が終わった時点での収益は前年同期比でわずかに減少(-3.4%)して 19,326 百万ユーロ(2017 年:20,001 百万ユーロ)となった。一方、研究・開発のための高水準の先行投資があったにもかかわらず、**EBIT** は 0.2%増の 1,881 百万ユーロ(2017 年:1,877 百万ユーロ)となり、前年度の記録的水準を維持した。**EBIT マージン**は 9.7%(2017 年:9.4%)まで改善され、目標範囲(8~10%)の上限に達した。**税引前利益**は前年比 0.2%減の 2,281 百万ユーロ(2017 年:2,285 百万ユーロ)となり、同様に高い水準にある。

BMW グループの**電気駆動モデル**はとりわけ人気があり、BMW i3 および BMW i8 の他、

BMW iPerformance や MINI エレクトリック・プラグイン・ハイブリッドの販売台数は前年比で 38%増え、27,000 台をわずかに下回るレベルであった。「したがって、今年は、14 万台以上の電気駆動モデルを提供できるようになります。」**ハラルド・クルーガー**は、こう語っている。BMW グループの第 1 四半期の全販売台数のうち、電気駆動モデルの割合は 4%以上 (2017 年 Q1:3.3%)を占めている。2018 年、3 つの自動車プレミアム・ブランドを持つ BMW グループが世界をリードするプレミアム・カー・メーカーになることは確実である。

BMW ブランドは 2.8%増の合計 517,447 台 (2017 年:503,445 台)を販売した。この数字は、現在のところ第 1 四半期としては最高の成績である。販売台数の増加は、特に BMW 5 シリーズと BMW X1 の新世代モデルによってもたらされたものである。これらのモデルは 2017 年春に導入され、いずれも 2 桁台の成長を記録している。

MINI ブランドも第 1 四半期は好調で、その販売台数は前年同期比 4.0%増の 86,375 台 (2017 年:83,059 台)となった。MINI および MINI コンバーチブルは 3 月に市場投入されるため、今年後半に向けて勢いを増すと予想される。

ロールス・ロイス・モーター・カーズの第 1 四半期の販売台数は、前年同期比 10.1%増の 807 台 (2017 年:733 台)となった。依然として不安定な中東市場を除き、Rolls-Royce モデルに対する需要は世界的に強く残っている。1 月から同ブランドのフラッグシップ・モデルである新型ファントムが販売されており、受注状況は年末まで高水準を維持すると見られる。またロールス・ロイス・カリナンの市場投入準備は、順調に進んでいる。

BMW グループは、製造、販売、マーケティング構造の高い柔軟性を駆使し、個々の地域間の変動する需要を平均化することで世界中でバランスのとれた販売を達成する、という戦略に取り組んでいる。第 1 四半期は、同グループの 3 つの**主要販売地域**すべてで業績を伸ばし、特に中国本土と米国の好調な業績が増収に寄与した。

欧州地域の販売台数は、前年比 1.0%増の 270,725 台 (2017 年:267,996 台)となった。フランスにおける第 1 四半期の販売台数は、前年よりわずかに増加した (3.1%増)。英国での業績は、ブレクジット交渉の進展に関する不確実性の影響を受けて 2.7%減少した。

アジア地域における第 1 四半期の BMW、MINI、Rolls-Royce ブランドの販売台数は、前年同期比 6.3%増の 212,693 台 (2017 年:200,140 台)となった。中国は依然として最大の貢献を続けており、BMW グループの自動車ブランド 3 社の出荷台数は前年同期比で 7.1%増加した。

南北アメリカ大陸地域での BMW グループの販売台数は、前年同期比 4.0%増の 106,348 台 (2017 年:102,238 台)であった。この数字には、米国で販売された 84,630 台 (前年同期比 3.0%増)が含まれている。

モーターサイクル部門の販売台数は昨年と同レベル

BMW モーターサイクル部門の第 1 四半期**販売台数**は、前年同様の高水準であった。世界全体での販売台数は前年同期比で 0.6%増加し、35,858 台(2017 年:35,636 台)を記録。7 年連続で第 1 四半期の販売記録を更新した。ただし、現行モデルのモデル・チェンジおよび為替の影響を受け、部門業績は抑制された。**収益**は 15.5%減の 524 百万ユーロ(2017 年:620 百万ユーロ)となった。EBIT も同じ要因による影響を受け 38.4%減の 77 百万ユーロ(2017 年:125 百万ユーロ)となった。年初来 3 か月間の **EBIT** は 37.6%減の 78 百万ユーロ(2017 年:125 百万ユーロ)となった。モーターサイクル部門の第 1 四半期における **EBIT マージン**は、14.7%(2017 年:20.2%)となった。ニュー・モデルの増産がやや遅れたことを踏まえると、2018 年の販売は微増にとどまると見込んでいる。

ファイナンシャル・サービス部門は順調

ファイナンシャル・サービス部門の管理する**契約ポートフォリオ**は報告対象の 3 か月間に 1.0%増加し、2018 年 3 月 31 日時点での契約数は 5,434,664 件(2017 年 12 月 31 日付契約数:5,380,785 件)であった。第 1 四半期には、451,908 件(2017 年:465,634 件)の**新規リース契約および信用融資契約**が小売顧客との間で交わされた(前年同期比 2.9%減)。部門収益は為替要因の影響を受けた。第 1 四半期の**収益**は 5.3%減の 6,674 百万ユーロ(2017 年:7,046 百万ユーロ)で、**税引前利益**は 5.7%減の 561 百万ユーロ(2017 年:595 百万ユーロ)となった。BMW グループは、引き続きリースおよびファイナンス事業の残存価額および信用リスク・エクスポージャーに関する適切な水準の引当金を計上している。

従業員の増員

BMW グループの従業員数は第 1 四半期末の時点で 131,181 人であり、2017 年 12 月 31 日時点から 1.0%増加した。引き続きデジタル化、自律走行、電気自動車などの将来的な分野に関する熟練労働者および IT スペシャリストを採用する。

BMW グループは 2018 年度の目標を再確認

BMW グループは、その強いブランド力、魅力的な製品ポートフォリオ、国際的な自動車市場が全体として上昇傾向を続けるという期待を元に、今年度の目標を達成できるものと信じている。これら好ましい要因はあるが、革新技術、熾烈な競争、人件費の増大などといった極めて高い水準の先行投資によって相殺される。世界的な政治的および経済的環境は依然として不安定であると予想される。

BMW グループは、今年一年を通じた見通しを再確認した。これについて**ハラルド・クルーガー**は、「当社は 2018 年の**自動車部門の販売台数および収益**に関し、新たな記録を打ち立てるという目標を設定しました。**税引前グループ収益**は、最低でも昨年水準になると予想しています。」とコメントした。BMW グループは自動車部門の **EBIT マージン**の目標範囲を、引き続き 8~10%と予測している。

計画中のモビリティ・サービスの統合化に関連して、BMW グループは、今年中に競争当局の承認を得た場合、合併会社の設立によって一回限りの評価および収益効果をもたらす業績の見通しを調整することになる。このような状況になった場合、2018 年の**税引前グループ収益**は 1 年前の予測よりわずかに高くなるであろう。なお、前述の影響が自動車部門の EBIT マージンに影響を及ぼすことはない。

ここに示した今年度の予測は、世界の経済および政治情勢が大きく変わらないという仮定に基づいている。

BMWグループ - 概要		2018年第1四半期	2017年第1四半期	変動率(%)
販売台数				
自動車	台	604,629	587,237	3.0
BMW	台	517,447	503,445	2.8
MINI	台	86,375	83,059	4.0
Rolls-Royce	台	807	733	10.1
モーターサイクル	台	35,858	35,636	0.6
従業員 ¹ (2017年12月31日時点との比較)		131,181	129,932	1.0
EBIT マージン 自動車部門 ³	%	9.7	9.4	+0.3% ポイント
EBIT マージン モーターサイクル部門 ³	%	14.7	20.2	-5.5% ポイント
EBT マージン BMW グループ ³	%	13.9	13.3	+0.6% ポイント
収益 ³	百万ユーロ	22,694	23,926	-5.1
自動車部門 ³	百万ユーロ	19,326	20,001	-3.4
モーターサイクル部門 ³	百万ユーロ	524	620	-15.5
ファイナンシャル・サービス ³	百万ユーロ	6,674	7,046	-5.3
その他の事業 ³	百万ユーロ	2	2	-
控除 ³	百万ユーロ	-3,832	-3,743	-2.4
金利税引前利益(EBIT) ³	百万ユーロ	2,733	2,821	-3.1
自動車部門 ³	百万ユーロ	1,881	1,877	0.2
モーターサイクル部門 ³	百万ユーロ	77	125	-38.4
ファイナンシャル・サービス	百万ユーロ	569	604	-5.8
その他の事業	百万ユーロ	9	4	-
控除 ³	百万ユーロ	197	211	-6.6
税引前利益 (EBT) ³	百万ユーロ	3,165	3,180	-0.5
自動車部門 ³	百万ユーロ	2,281	2,285	-0.2
モーターサイクル部門 ³	百万ユーロ	78	125	-37.6
ファイナンシャル・サービス	百万ユーロ	561	595	-5.7
その他の事業	百万ユーロ	70	-4	-
控除 ³	百万ユーロ	175	179	-2.2
法人税 ³	百万ユーロ	-864	-906	4.6
営業利益 ³	百万ユーロ	2,301	2,274	1.2
1株当たり利益 ^{2,3}	ユーロ	3.47/3.47	3.45/3.45	0.6/0.6

¹ 休職中の雇用契約、退職前のパートタイム労働契約および低賃金労働者の労働および非労働段階の従業員を除く。

² 普通株式／優先株式1株当たりの利益。

³ 2017年の数値はIFRS第15号に従って調整 - 四半期報告書の注[5]を参照。

この件に関する読者および視聴者からのお問い合わせ先は、
BMW カスタマー・インタラクション・センター:フリーダイヤル 0120-269-437 を
ご掲載ください。

受付時間: 平日 9:00-19:00 / 土日祝 9:00-18:00
BMW インターネット・ウェブサイト: <http://www.bmw.co.jp>

この件に関する報道関係者のお問い合わせは:
BMW Japan Corp. 広報室: 03-6259-8025 (企業広報)